いわさきちひろ 生誕地・武生 ピエゾグラフ展

ちひろとアンデルセン

いわさきちひろ　五つぶのえんどう豆　1972年

2025/9/13[SAT] ▶ 2025/12/1[MON]

ちひろの生まれたまち
〈越前・武生〉

「ちひろの生まれた家」記念館
●主催●越前市観光協会●ちひろ美術館●

いわさきちひろ 生誕地・武生 ピエゾグラフ展

ちひろとアンデルセン

2025/9/13[SAT]▶2025/12/1[MON]

百年もの年代の差をこえて、わたしの心に、かわらないうつくしさをなげかけてくれるアンデルセン――むかしふうの文章なのだけれど、その中にいまの社会につうじる、同じ庶民の悲しさをうたいあげているこの作家に、わたしは、ずいぶん学ぶことが多い。アンデルセンの童話のもっている夢が、たいへんリアルであるということが、現代のわたしたちの心にもつうじるのであろう。

いわさきちひろ 1964年

デンマークの作家ハンス・クリスチャン・アンデルセンがこの世に生まれて、今年で220年になります。
ちひろは、人の喜びや悲しみを描きだすアンデルセンの童話に心惹かれ、毎年のように彼の童話に絵を描きました。1966年には、『絵のない絵本』の取材を目的に、約一か月にわたるヨーロッパ旅行に出かけ、アンデルセンの生地デンマークのオーデンセも訪れています。「なにからなにまで見なければ描けないなんてことはないけれど、じかにこの目で見、ふれることのできる感動がどんなにわたくしを力強く仕事に立ち向かっていけるようにするかということをかみしめていました」と語り、その後の絵にはヨーロッパの建物や風景を見たからこその臨場感を感じる表現が取り入れられていきます。
本展では、ヨーロッパの旅で描かれたスケッチや、絵本『おやゆび姫』『絵のない絵本』『にんぎょひめ』『あかいくつ』を、ピエゾグラフ作品でご紹介します。

いわさきちひろ　教会の前で踊るカーレン
『あかいくつ』(偕成社)より　1968年

【ピエゾグラフとは】　ちひろ美術館では、2004年より、その時点の作品の状態をデジタル情報として記録し、保存していくアーカイブを進めてきました。同時に、そのデジタル情報をもとにして、「ピエゾグラフ」の制作をしています。
ピエゾグラフとは、耐光性のある微小インクドットによる精巧な画像表現で、ちひろの繊細な水彩表現を高度に再現しています。

手仕事
Echizen-shi JAPAN

伝統的工芸品や越前おろしそばなど、越前市観光のお問い合わせは

越前たけふ観光案内所　☎0778(42)5257
越前市大屋町38-5-1 北陸新幹線越前たけふ駅隣 道の駅「越前たけふ」内

観光・匠の技案内所　☎0778(24)0655
越前市府中1丁目2-3 ハピラインふくい武生駅前センチュリープラザ内

echizen-tourism.jp　（運営：一般社団法人越前市観光協会）

CHIHIRO
MEMORIAL HOUSE

越前国の中心地として栄えた武生（現・福井県越前市）のまちなか、職人町風情が漂う旧北陸道から少し東に入った路地に面し、静かに佇む古い町屋があります。そこはかつて、質・古着屋が営まれていた商家。この家の離れで、のちに日本を代表する絵本画家となる、いわさきちひろは生まれました。ちひろの母・岩崎文江は当時、武生町立実科高等女学校の教師として単身赴任していました。やがて、ちひろを身ごもると、お産のためにこの家の離れに移りました。そして1918年12月15日の雪の朝、ちひろはここで産声をあげたのです。今も往時の暮らしの面影を残し、静かな時が流れるこの町屋を、「ちひろの生まれた家」記念館として公開しています。

「ちひろの生まれた家」記念館

chihironoie.jp

【開館時間】10:00〜16:00
【休 館 日】火曜（祝日の場合は翌日）、年末年始
【入 館 料】一般 300円（高校生以下は無料）
※一般団体（10名以上）200円
※高校生以下の団体（5名以上）の引率者（1名）無料
※障害者手帳をお持ちの方150円
※障害者の引率者（1名）無料
【アクセス】（電車）ハピラインふくい武生駅より、徒歩約10分
福井鉄道たけふ新駅より、徒歩約15分
北陸新幹線越前たけふ駅より、タクシーご利用で約15分
（お車）北陸自動車道武生IC・道の駅「越前たけふ」より、約15分　※駐車場あり

〒915-0068 福井県越前市天王町4-14
☎0778-66-7112